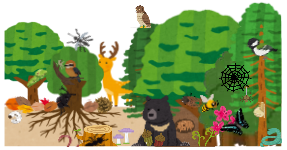
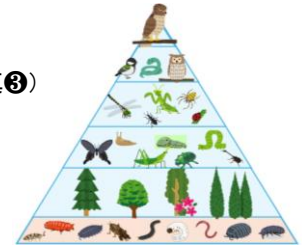
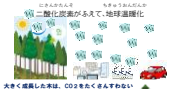
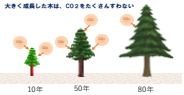
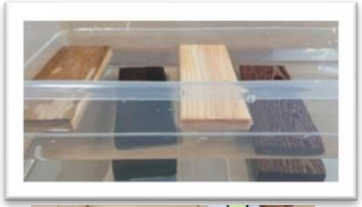
所要時間		進行（リーダー推進員）	アシスト推進員	写真	留意点・挿入話・その他
活動1	13分	**（活動1）森の生態系**		（写真❶）	パワーポイントとノート参照で進める （補足）木がいっぱい生えているだけなかなあ？
		1）1）講座の進め方を伝える。 地球温暖化との関連の中で、森とのつながりを学ぶことを伝える。 2）**「みんながこれから行く山や森ってどんなところでしょうか？」** 山や森ってどんなところかを思い起こさせたり、想像させたりする。**「山や森って、生き物の死骸だらけ・・・！？落ち葉だらけなのでしょうか・・！？」** 「森の生態系ピラミッド」につなげる。	パワーポイントを話の順に進める。	（写真❷）	
		2）「森の生態系」について説明する。 分 解者：土壌動物→植物→草食の動物：昆虫（チョウ）→肉食動物：肉節足動物（クモ）→肉食の動物：小鳥→肉食の動物：猛禽類		（写真❸）	磁石のついた三角形の「生態系」のカードを底辺から順に、説明しながらはっていく。

所要時間		進行（リーダー推進員）	アシスト推進員	写真	留意点・挿入話・その他
活動2	10分	**（活動2）二酸化炭素を吸収する森林とその維持**			
		1）木が二酸化炭素を吸収する働きを説明する。	パワーポイントを話の順に進める。	（写真❹） （写真❺） （写真❻） （写真❼）	パワーポイントとノート参照で進める。 二酸化炭素を吸収して、炭素が固定され、酸素が出ていくという流れをPPの動画で視覚的に訴える。
		2）地球温暖化と二酸化炭素の関係を説明する。 **「二酸化炭素を吸収する木を伐っては、だめなのでしょうか？」**			樹齢と二酸化炭素の吸収量について伝える。 滋賀県の木々が伐採時期にきていることにつなげる。
		3）「伐る・使う・植える」の循環の必要性を伝える。この循環が、森の生態系の維持とつながることを伝える。			滋賀県のびわこ材の活用について、写真を提示する。（地域にふさわしいものがあれば、その写真などを提示）

所要時間		進行（リーダー推進員）		アシスト推進員	写真	留意点・挿入話・その他
活動3	20分	（活動3）ワークショップ　～五感を通した木とのふれあい～				机を3カ所に設置して、各場所に推進委員が入る。　各コーナー5分ずつ体験させる。 **※水に浮かべる木片は、1セットに限定する。**
		1）	①「どれが、つめたい？」 マグカップ（陶器）、コップ（ガラス）、カップ（金属）、お椀（木製） 冷水で体感→保温水筒（氷を入れて）　150㎖×４×３セット	ふれてみさせて、冷たさを感じにくいということは、熱を伝えにくいということであり、熱いものを注いでも、持ちやすいということに気づかせる。		
		2）	②「どれがおもい？」　　木の重さを体感させる キリ、コクタン、タガヤサン、ヒノキ ※予想した後で、水槽に入れた水に木片を浮かべて、確かめる	水槽に木片を浮かべて、確かめさせる。		「木づかいクイズ」　コーナーを横に設置 （実際に使用している製品などにふれて、何故その木が使われているかを知らせる。実物が用意できない物は、写真で提示）
		3）	③「どのにおいがすき？」 木の放つにおいを感じさせる 一例：キリ、スギ、ヒノキ、クスノキ、モミ （においを感じにくい木も入れる）	子ども達の香りに対する反応を受けとめる。		

所要時間		進行（リーダー推進員）		アシスト推進員	写真	留意点・挿入話・その他
活動4	2分	（活動4）ふりかえり				事前の打ち合わせの際に、担任と「ふりかえり」において、何について書かせたいか相談して決めてもよい。
		1）	1）山・川・琵琶湖のつながりの中で、自分たちが暮らしていることを知らせる。			
		2）	今日の学習で、気づいたこと「やまのこ」に行ってやってみたいことなどをワークシートに書かせる。			